

国語 第2学年 【じょうほう】メモをとるとき 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「【じょうほう】メモをとるとき」 教材名 「【じょうほう】メモをとるとき」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。〔知識及び技能〕(1)ア)

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔B(1)ア)

知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする。この教材では、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

経験を口述しながら教師と短い語にする。記号や絵も使い、本人が後から内容を思い出せるか確かめる。想定する難しさは、メモをきれいな文章にすることに集中し、必要な事柄を残せない。評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。メモから友達に内容を説明し、足りない材料を加えて伝える中心を選ぶ。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第3次 第3時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。評価：態①（学習前後の記録と見直しの

理由)

6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「あとで文章にするために、どのことをメモに残しますか」

【めあて】知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする。

予想される児童の反応：・全部の文を書かなくてもメモから思い出せる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「あとで文章にするために、どのことをメモに残しますか」

学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。メモから友達に内容を説明し、足りない材料を加えて伝える中心を選ぶ。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・全部の文を書かなくてもメモから思い出せる。

・したことと気持ちを分けて残したい。

指導上の留意点：経験を口述しながら教師と短い語にする。記号や絵も使い、本人が後から内容を思い出せるか確かめる。

想定する難しさ：メモをきれいな文章にすることに集中し、必要な事柄を残せない。

評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・したことと気持ちを分けて残したい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「あとで文章にするために、どのことをメモに残しますか」。中央は、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

